

西脇市保育協会との課題懇談会 報告書

開催日時：2026年1月26日（月）13：30～15：11

開催場所：西脇市役所 委員会室

出席者：

<西脇市保育協会>

伊達恵一（西脇こども園長） 笹倉泰彦（比延こども園長）
藤尾茂雄（どれみこども園長） 閑念智志（日野こども園長）
宮崎宣代（かすがこども園長） 松本 浩（つまこども園長）
仲田保弘（芳田こども園長） 荻野隆之（黒田庄こども園長）

<文教民生常任委員会>

藤原秀樹委員長、藤原哲也副委員長
林 晴信委員、村岡栄紀委員、吉井敏恭委員
森脇久夫委員、巽 泰委員、藤本留実委員

1 趣旨

西脇市に若い人に住んでもらうためには、安心して子供を預けられる環境（保育）が欠かせない。そのため、現場の園長先生たちの懸案事項を議会と共有することを目的とする。

2 保育園が困っている「5つのポイント」

- (1) 市内にある8つの「認定こども園」で、先生たちの給与表を統一した。運用にあたっては、専門的な知見を要し、各園単独で実施するには困難を伴うことから8園一括で業者に委託している。この業者への委託費用を支援してほしい。
- (2) 子供たちの健康を守るための検査に、先生たちの予防接種などの費用を加えて補助してほしい。
- (3) 古くなった建物の修理代が足りない。建ててから20年以上経つ園もあり、エアコンの修理に2,000万円かかるケースもある。将来、建て替えが必要になった時のために、お金を貯めていく余裕がない。
- (4) 保育士を集めるのが大変、全国的に保育士が不足している。西脇市で働いてくれる保育士を増やすために、市独自の手当を増やして「西脇市は保育士を大切にすまちだ」とアピールしたいと考えている。
- (5) 「こども誰でも通園制度」の赤字問題、国が新しく始める「こども誰でも通園制度（仕事をしていない親でも子供を預けられる仕組み）」は、準備や人手にお金がかかり、今のままだと赤字になってしまう。これを市でサポー

トしてほしい。

3 各保育園長たちが伝えた「現場のリアル」

市内の各園長からは、以下のような意見が出ました。

(1) 子供の家庭環境の変化

スマートフォンに夢中で子供と向き合えない親や、子育てに不安を抱える家庭が増えており、園でのサポートがより重要になっている。

(2) 専門家の力が必要

保護者の心のケアをする「臨床心理士」などの専門家に、もっと園に定期的に来てもらい、アドバイスをしてほしい。

(3) 少子化の影響

子供の数がどんどん減っている。将来、先生が余ってしまう心配もあり、園同士でどう協力していくかが大きな課題

(4) 地域の拠点へ

園にただ子供を預かるだけの場所ではなく、地域みんなが集まれる「子育ての相談場所」にしていきたい。

4 これからの展望

現場の深刻な状況がよくわかった。今回出た課題（専門家の確保や修理費など）を委員会で検討をし、行政に提言していきたい。